

3年生学年だよ

平成 28 (2016)年 4月27日

第9号

吹田市立第二中学校第三学年

有終を目指して～クラブについて～

『有終の美を飾る』ということわざがあります。「ものごとをやり通し、最後を立派に仕上げること。結果が立派であること。」という意味です。

中学校3年生には、様々な終わりがやってきます。どのように終わらせるのか？何か物事を進める上で、終わり方を鮮明にイメージすることは、とても大切です。

終わり方（＝ゴール）のイメージをハッキリ描けていれば、まちがった方向に進んでいる時に、「あ、ゴールはこっちじゃない。こっちに向かった方がいいな。」と方向修正できます。

クラスならば「このクラスで良かった！」を目指します。それに向けて、1年間積み重ねていきます。2年生のクラスの終わりは、ほとんどすべての人が「自分のクラスが1番！」と思えたのではないのでしょうか？

さて、クラブの終わりはどうあるべきでしょうか？

冨田先生は、中学校時代、地域の硬式野球のチームに所属していました。優勝を当たり前を目指せるチームで、全国優勝した年もありました。甲子園で活躍する選手、プロ野球で活躍する選手も多く輩出するようなチームで、冨田先生の弟は天理高校で甲子園に出場、昨年まで社会人で野球を続けていました。2つ上の先輩には西武ライオンズの中村剛也選手（おかわりくん）がいました。

そんな実力派チームなので、練習も超スパルタ。平日は水曜日以外は夕方5時～8時まで練習。学校が休みの日は朝から晩まで練習（長期休みもです）。野球が無い日はお盆と正月ぐらいでした。冨田先生いわく、「人生で一番しんどかったのは間違いなく中学校の野球でした。地獄でした。今、あの時に戻れと言われたら、渾身の力で逃げます。」

冨田先生は、レギュラーではありませんでした。同じ学年に30人ほど部員がいて、ベンチ入りが精一杯でした。3年生の4月、（ちょうど今ぐらいの時期ですね）色んなことに嫌気が差し、耐え切れなくなり、クラブを辞めたいと思ったことがありました。父親に打ち明けると、「あともうちょっとやねんから、最後まで続けたら？途中でやめるのはいつでもできる。もったいない。」というような感じで諭されて、冨田先生も思い直し、最後までやり切ることができました。

最後までレギュラーにはなれませんでした。冨田先生は中学校のクラブ活動を通して、『最後までやり切ること』と『地獄を共にくぐり抜けた仲間』と『心身のタフさ』を得たと言っています。中学校のクラブ活動は、冨田先生の人生を支える大切な『幹』となっています。

男子ソフトテニス部は、この土日、選手権大会吹田予選がありました。土曜日が個人戦、日曜日が団体戦でした。勝ち進めば大阪まで続く、大きな大会です。結果は…個人戦、団体戦ともに1回戦負け…。

しかし、顧問の冨田先生は、日曜日の団体戦の終了後、選手を誉めました。選手も塞いでいる雰囲気はなく、清々しさすらありました。（当然悔しさもあったでしょうが…。やはり勝ちたい。）なぜでしょうか？

なぜならば、土曜日より日曜日の方が頑張っていたからです。

日曜日の試合は、しっかり構えて、足を常に動かしていました。最後まであきらめずにボールを追いかけていました。ペアで声を掛け合っていました。大きな声を出せていました。

それぞれの選手が、土曜日の反省を活かし、頑張っていたのです。クラブとして、良い終わり方に向かって、一歩前進した瞬間でした。

他のクラブはどうでしょうか？運動系クラブも文化系クラブも、2年間がんばってきた成果は出ているのでしょうか？

『有終』という言葉の意味は「終わりを全うすること。終わりをしっかり締めくくること。」です。『美を飾ること』ができなくても、一生懸命がんばってやり切ることの価値は、輝きを失いません。

大切にしたいのは、そこです。

レギュラーでなくても、人数が足りなくても、一回戦負けでも。一生懸命がんばってやり切ることができます。一生懸命がんばってやり切って終わることできれば、それが人生の『節目』となり、『幹』となり、次へのエネルギーにつながっていきます。（君たちも、今までの中学校生活で何度か経験していると思います。）

クラスの仲間は38人。1年間でメンバーが変わります。クラブの仲間はそれより人数が少ないし、期間も2年半。その分つながりも深くなり、思い出もたくさんあるでしょう。

クラブ活動が、あと3～4ヵ月ほどで終わりを迎えます。今のままで、大丈夫ですか？どんな終わり方がしたいか、鮮明にイメージしてみてください。「やり切った感」「達成感」「感動」はありますか？

先生たちのメッセージは、「一生懸命がんばってやり切れ！」です。応援しています。

最後になりましたが、今クラブに入っていない人も、ぜひ色々な形で応援してあげてください。さぼろうとしたり、弱音を吐いている友達がいたら「頑張れ！」と尻を叩いてあげられる関係であって下さい。頑張っている友達がいたら「頑張ってるな～！」と労える関係であって下さい。いい結果が出せた友達がいたら「すごいやん！」と認められる関係であって下さい。

そんなつながりのある学年を作っていきましょう。